

No. 62	平成2年6月28日 発行
ねじればね	発行: 日本甲虫学会
	〒658 神戸市東灘区御影山手2丁目19-8 大倉正文 方
June, 1990	電話: (078) 811局 2706番
	郵便振替口座 大阪9-39672 番

雨石山麓において鶏肉トラップに誘致された

甲虫類について (4)

林 靖 彦

本シリーズの第1報を発表して既に5年を経過したが、ヒゲブトハネカクシ亜科、ケンキスイ科及びキスイムシ科の資料は未発表のままであった。これらの中には諸般の事情で未同定のままのものもあるが、一部は筆者の不注意から所在が不明となったままになっている。このような不完全な状態のままで、このシリーズを終るのは大変心苦しいのだが、敢えてここに残りの資料をそのまま提出し、本稿を持ってシリーズの一応の終りとしたい。不明種は全体の2%足らずの個体数で、うち半数はヒゲブトハネカクシの1種であり、誘致状況の全体像考察への影響は殆どないものと思われる。

2. 誘致された種とその季節的消長

ハネカクシ科 STAPHYLINIDAE (その2: ヒゲブトハネカクシ亜科 ALEOCHARINAE のみ, 17種+,

1,087頭) -表8-

1. ヒゲブトチビハネカクシ *Silusa lanuginosa* SHARP

附近の落葉下からもよく得られる。

2. アカセミゾハネカクシ *Autalia rufula* SHARP

落葉下からも得られる。

3. *Microglotta* sp.

4. *Atheta japonica* BERNHAUER

5. *Atheta picipennis* (MANNERHEIM)

6. *Atheta* sp. A

7. *Atheta* sp. B

8. *Ocyota* sp. ?

9. *Oxypoda proba* SHARP

本州のみから知られているらしい。

10. *Oxypoda* sp.

11. コクロヒゲブトハネカクシ *Aleochara parens* SHARP

腐植質に普通、近似種が多い。

12. ヒゲブトハネカクシ *Aleochara lata* GRAVENHOST

前種ほど個体数は多くないが各地に普通。腐植質からよく得られる。

13. *Aleochara* sp. A

14. *Aleochara* sp. B

15. *Aleochara* sp. C

16. *Aleochara* sp. D

上記AからDまではいずれもコクロヒゲブトハネカクシにごく近い種類である。

17. *Aleochara* (*Heterochara*?) sp. E

本種は早春から晩春にのみ誘致された。

殆どの種を同定していただいた澤田高平氏に厚く御礼申し上げます。

不明種：数属、数種含まれているが、約7割5分は *Aleochara* sp. E である。

ハネカクシ科(2) (ヒゲブトハネカクシ亜科) (表 8)

年 月	'79. XI.			'80. I.			II			III			IV			V			VI			VII			VIII			IX			X			XI			合 計													
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下														
種名 / 旬	3			2						3	2	4	6	3	2	2	2	1																																
ヒゲブトチビハネカクシ				1																																				3	3	3	39							
アカセミノハネカクシ							1																														2	1	1	7										
Microglossa sp.																1																											1							
Atheta japonica							1	2	16	11	2	2	20	9	1																												209							
Atheta picipennis	1																																							1			3							
Atheta sp. A	1																																										1							
Atheta sp. B																									1	1																	2							
Oeyota sp. ?	9	6																																			3	26	113	93	19	269								
Oxyptoda proba	9	2	1	1																														1	87	46	48	38	2	235										
Oxyptoda sp.																																					2						2							
コクロヒゲブトハネカクシ													13	9	49	40	6	2	4							2	3	6	11	8	1	1	1											156						
ヒゲブトハネカクシ																												5																		6				
Aleochara sp. A													16	7	13	4	2	1	1							1	3	1	4	1								1									54			
Aleochara sp. B																3	2	1	1							3	2	1																			13			
Aleochara sp. C																1									1	1	1																						4	
Aleochara sp. D																																																	1	
Aleochara sp. E													4	1																																			5	
不明(spp.)	1									6	10	9	2	8	1	7	15	1	4																			1												80
合 計	19	13	3	6	2	1	2	1	1	5	169	25	17	7	51	25	40	72	45	7	2	10	1	11	10	10	17	8	2	2	2	2	2	2	94	79	165	139	24	1087										

科別誘致状況 (表11)

(上段個体数、下段種数・・・カッコ内は別に若干の不明種あり)

年 月	*79, XI			*80, I			II			III			IV			V			VI			VII			VIII			IX			X			XI			合 計					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
1. オサムシ科	12	2	3	3				1	1	1	1	1	1	8	3	1	3	1	3	2	2	1	20	11	26	26	76	26	36	24	2	292										
2. ガムシ科	3	2	3	2				1	1	1	1	1	1	4	3	1	3	2	1	2	1	1	6	3	4	3	4	4	4	3	1				474							
3. エンマムシ科	1							2	3	18	13	20	11	32	21	47	38	12	8	11	6	13	1	10	9	7	6								174							
4. タマキノコムジ科	1							1	2	8	56	36	12	2	3	8	27	15	1	2	4													1								
5. ムクゲキノコムジ科	1							2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				8							
6. チビシテムシ科	31	8	4	10	26	16	5	14	3	4	8	26	20	25	37	48	72	58	29	19	17	16	12	2								20	13	29	61	158	115	249	128	104	1387	
7. シテムシ科	6	2	4	3	3	3	2	2	1	2	2	5	6	4	3	5	4	4	3	2	1												1	2	2	4	5	3	6	6	3	885
8. ハネカクシ科	2				1	3					7	26	108	52	41	11	53	81	34	70	105	45	28	42	66	57	15	11	14	11								885				
9. コブスジコガネ科	1				1	2					1	4	5	5	3	3	5	4	3	3	4	3	3	1	2	3	1	1	2	1								1				
10. コガネムシ科	83	14	1	9	18	5	5	7	6	1	4	16	173	30	23	10	64	73	109	183	83	51	30	29	23	10	58	62	31	31	34	50	133	57	136	95	204	159	49	2159		
11. ジョウカイボシ科	7	6	1	5	(5)	3	2	2	4	1	3	4	(5)	(4)	(5)	(3)	(9)	15	(10)	(12)	9	7	8	(7)	4	6	7	11	9	9	7	8	9	9	(10)	(12)	10	(10)	5	1		
12. ケシキスイ科	10	1									1	11	21	45	85	44	8	8	20	33	42	91	22	10	71	55	35	45	6	24	3	4	1				697					
13. キスイムシ科	1	1									1	1	3	2	3	4	2	4	5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	1	1				1					
14. ムクゲキスイムシ科	3	5	6	5	2	2		1	4	19	8	6	1	5	4	10	2																					85				
15. ミジンムシダマシ科	1	1	(1)	1	1	2		1	1	1	1	(1)	1	1	(1)	(1)																						19				
合 計	143	31	4	23	29	40	23	15	23	5	9	31	219	59	60	52	130	204	318	558	223	160	92	162	188	98	256	217	94	144	174	185	304	172	411	253	565	316	155	6185		
	21	13	4	(10)	(9)	10	6	7	(8)	3	6	(8)	(12)	(12)	(14)	(10)	(20)	(33)	26	23	25	(22)	17	13	19	22	18	17	21	20	27	22	(25)	(23)	23	(21)	9					

考察：ヒゲブトチビハネカクシは晩秋に出現し、厳冬期にも活動しているようである。アカセミゾハネカクシも前種と似たような誘致状況を示しているが、これら2種ともに落葉からも得られ、年一化かどうか不明である。Atheta japonica は早春に出現し、晩春には姿を消すことから年一化と考えられ、食屍性も強いものと考えられる。Ocyota sp. は晩秋から初冬にかけてのみ誘致されていることから成虫越冬はしないように思われ、食屍性も非常に強いようである。Oxypoda proba も前種と同様の消長を示したが、両者ともに1979年には、1980年の同期にくらべ非常に少数しか誘致されておらず、その理由は不明である。コクロヒゲブトハネカクシと Aleochara sp. A はほぼ同様の消長を示しており、初夏と晩夏に誘致のピークのあることなどから、年2～3化と思われる。Aleochara 属の種は一般に晩春以降に多く誘致され、中秋以降は殆ど誘致されなくなった。また、食屍性もそれほど強くないように思われた。

ケンキスイ科 NITIDULIDAE (2種+, 85頭) -表9-

1. ヘリグロヒラタケシスイ *Omostiba discoidea* (FABRICIUS)

食屍性の強い種ようである。

不明種：3～4属の4～5種が含まれているが各種ともに個体数は少ない。

考察：食屍性の強い種が少ないのか、少数の種が誘致されたにすぎない。しかし、常念岳においてはもっと少なく、数頭誘致されたのみのようであった。ヘリグロケシスイは晩秋から初夏まで長期に亘って誘致され、厳冬期にも活動しているようであるが、年一化ではないかと思われる。ただ、1980年の晩秋に全く誘致されなかった原因は不明である。

キシムシ科 CRYPTOPHAGIDAE (2種+, 19頭) -表10-

Atomaria属1～2種及びCryptophagus属1種が含まれている(いずれも不明種)。いずれもトラップ周辺の落葉下から得られる種と同じと思われた。

3. ま と め 一表11-

誘致された甲虫類は、未同定種も含め、15科120種前後、6,200頭近くに達した。上村 清氏が1960年に常念岳で行った調査に較べると、誘致された種数、個体数ともに遙かに及ばないが、常念岳の低山域だけに限った比較では左程遜色はないように思われた。若干の不明種を残しているが、雨石山における食屍性の甲虫類の季節的消長の概要は明らかになったものと思う。

誘致された個体数の変化を見ると、盛夏までと秋口以降では異っていることが判る。即ち、盛夏までは3月中旬、5月上～6月上旬、7月上～中旬、8月上～中旬の比較的短期間の大小のピークが見られる。一方、秋口以降は、9月上旬から12月上旬まで、殆ど切れ目なく高原状となり、10月上旬、下旬、11月中旬と隔旬毎にさらに大きなピークが認められた。また、誘致された種類の多いのは5～6月と10～11月で、特に5月中旬から6月上旬にかけては30種前後の種が得られた。

科別に見ると、ほぼ通年して切れ目なく誘致されているのは、ハネカクシ科のみであった。ついで中断期間の短いのはチビシテムシ科であった。ガムシ、エンママシ、シテムシ及びコガネムシの各科は互によく似た誘致のパターンを示した。即ち、晩春、盛夏前、秋口の3期に大小の誘致のピークを認めた。

通年して食屍性の強い群としてはチビシテムシ類、シテムシ類がある。ガムシ、エンママシ、ハネカクシ、コガネムシの各科にも周年経過中ずっと食屍性の強い一群が見られた。他方、ヤマトマルクビハネカクシ *Tachinus japonicus* SHARPに見られるように、周年経過のある時期にのみ強い食屍性を示す種もあった。また、ゴミムシ類のように、秋には強い食屍性を示しながら、春に全くといってよいほど食屍性を示さない（トラップ周辺には普通に見られる）のは何故か不明である（ことによると“生け”のエサしか食べないのか？）。

誘致された全甲虫類に対する科別の個体数の割り合いを見ると、ハネカクシ科が断然多くて全体の35%を占めた。次いでチビシテムシ科の22%強、シテムシ科の14%強、コガネムシ科の11%強が10%を越えていた。また、ガムシ科の8%弱は以外に多くて驚きだが、オサムシ科は5%弱と種類数の割

に少なかった。

食屍性甲虫の食肉トラップによる誘致状況の観察は、その甲虫の季節的消長の一面を示しているが、全ての面を見せていない場合もあり得ることが判明した。また、食肉群においても季節によって食嗜に変化のあることが推察された。

<付 記>

本シリーズ第1報において、チビシデムシ科中、*Catops* sp. A とした種は *Catops shihatai* として、また *Catops* sp. B とした種は *Catops tanbaensis* として “昆虫学評論, 42, Suppl.” 誌上に筆者によって発表された。また、第2報においてハネカクシ科の *Proteinus crassicornis* SHARP としたものには少数の別種が含まれていることが後日判明したので、その別種を *Proteinus gotoi* ゴトウチビハバビロハネカクシとして “昆虫学評論, 41 (2)” 誌上に筆者が発表した。それ故、本誌上で *P. crassicornis* のデータの訂正と *P. gotoi* のデータの追加を行った(表4補正)。なお、*P. crassicornis* に対する考察の修正は必要ないと思う。

文 献

- 木村 裕, 他. 1969: 灯火に飛来した岩湧山の甲虫類について。びいとるず, 1(1): 2-24.
- 1970: 同上, 1(2): 2-22.
- 1971: 同上, 2(1): 2-20.
- 1971: 同上, 2(2): 2-20.
- 1972: 同上, 3(1): 2-18.
- 上村 清、小山長雄、中根猛彦. 1962: 日本アルプス常念岳に於ける歩行虫類の分布(高山の昆虫研究 II)。京都府立大学学術報告“理学及び家政学” A 3(4): 197-210.
- KAMIMURA, K., NAKANE, T. and KOYAMA, N. 1964: Seasonal and altitudinal distribution of

beetles in Mt. Jonen , the Japan Alps , with descriptions of new species , I (Studies on the insects of high mountains , III). Sci.Rep.Kyoto Pref. Univ. (Nat.Sci., Liv. Sci. & Welf. Sci.) , A (15) : 17-38.

新 入 会 員



再 入 会



住 所 変 更





死 去 (謹んでご冥福をお祈りします)



退 会



平成元年度 収支決算書

(自 昭和64年 1月 1日)
(至 平成元年12月31日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
会 費	1,620,450 円	印 刷 費	2,317,695 円
バックナンバー代	73,100	通 信 費	203,980
別 刷 代	64,950	消 耗 品 費	21,866
寄 付 金	5,000	幹 事 会 費	11,787
雑 収 入	201,971	雑 費	6,036
仮 受 金	900,000	仮 受 金 引 当 金	900,000
次期繰越不足金	928,268	前 期 繰 越 不 足 金	332,375
計	3,793,739	計	3,793,739

特別会計収支計算書

(会報発行基金)

昭和64年	1. 1	前 期 繰 越 金	1,253,651
平成元年	1. 20	40万円貸付信託収益金 (63.7.20 ~ 1.1.19)	7,392
	3. 26	金 銭 信 託 収 益 金 (63.9.26 ~ 1.3.25)	967
	5. 20	80万円貸付信託収益金 (63.11.20 ~ 1.5.19)	15,424
	7. 20	40万円貸付信託収益金 (1.1.20 ~ 1.7.19)	7,712
	9. 26	金 銭 信 託 収 益 金 (1.3.26 ~ 1.9.25)	1,420
	11. 20	80万円貸付信託収益金 (1.5.20 ~ 1.11.19)	15,424
	12. 31	次 期 繰 越 金	<u>1,301,990</u>

ご投稿の図版について

図版は投稿規定8に記載のように、おおむね横2に対し、縦3の割合で作成して下さい。なお、大きさは横2.5cm、縦3.5cm以内に収めるようお願いいたします。非常に大きな図版を送られる会員がありますが、今後は受領しかねることもありますので、充分ご注意ください。

別刷代金の値上についてお願い

当会の別刷代は、現在1頁につき2円、また表紙作成代の一部負担金として2,000円を頂戴していますが、これは印刷所に支払っている実費の約1/3に過ぎません。別途、収支決算書の通りこのところ赤字続きですので、来年度第46巻分から1頁につき3円、表紙作成一部負担金を3,000円に、それぞれ値上げさせていただきますので、予じめご諒承下さい。それでも実費の約半額に過ぎませんので、事情ご賢察のほどお願い申し上げます。